

# 家 族 社 会 学 セ ミ ナ ー

ニュースレター

NO. 6

発行年月日 1991. 3. 8

編集・発行 家族社会学セミナー事務局

Tel 03-3203-4141 EXT 72-2370

## 日本家族社会学会の 結成

すでにニュースレター5号で案内しましたように、本年7月に家族社会学セミナーは発展的に解消し、日本家族社会学会が発足する運びになりました。

思い起してみますと、アド・ホックに、しかし結果的に20年の長きにわたり継続した「家族社会学セミナー」を組織体としての「家族社会学セミナー」へと編成しなおし、その間に学会化の可能性を探り、かつそのための準備を開始して以来はや4年の歳月が経過しました。

その間に、各種の会則を作成し、機関誌『家族社会学研究』を発刊し、会員名簿や会員の業績表などを作成する一方で、日本家族社会学会の会則や理事選挙規則など学化に向けて着実かつ精力的に準備を進めてきました。多数会員の絶大な支持と協力を得て、このたびようやく「日本家族社会学会」の発足にまで漕ぎつけることができました。会員の皆様方と共に新しい学会の誕生を祝福すると同時に、学会の将来に向けての発展を期したいと思います。

## 日本家族社会学会の設 立総会開催のお知らせ

日本家族社会学会第1回セミナー大会(第24回家族社会学セミナー)が、前号に案内しましたように、来る7月21日(日)～7月23日(火)の2泊3日の予定でもたれることになりました。その初日午後、日本家族社会学会設立総会が開催される予定です。ここでは、学会の会則や選挙規定、あるいは学会の運営などに関する重要な議題が審議されます。多数の会員の方々が参加されることをせつに希望します。なお、総会で議される予定の会則案および選挙規定案の骨子はニュースレター5号に掲載しましたので、予めご検討ください(なお多少の修正を施したものが原案として提出されるはずです)。

## 学会設立準備委員会 の発足

これまで4年間にわたり、企画運営委員会がセミナーの運営に当たってきましたが、昨年の総会において、学会設立準備委員会の組織化が承認されたことにより、新理事会発足までのあしかけ2年間にわたり学会設立準備委員会が事実上セミナーの運営に

当たることになりました。なお、学会設立準備委員には、企画運営委員会委員(森岡清美、青井和夫、石原邦雄、上子武次、篠原正美、袖井孝子、野々山久也、牧野カツ子、正岡寛司、目黒依子、望月嵩、本村汎)の他に、旧学会化委員会から神原文子、清水新二、渡辺秀樹、善積善子の4氏を加えて発足することになりました。

なお、学会の発足にあたり関連学会への呼びかけあるいは新会員の募集案内を行う予定ですが、その呼びかけ人には学会設立準備委員会委員の他に、会計監査の岡村益、宮城宏の2氏、さらに土田英雄、藤見純子、光吉利之氏などを加えて組織することになりました。

いずれ案内状が届くと思いますが、入会を希望される方がありましたら、積極的に推薦してください。

#### 編集委員会からのお知らせ・お願い

『家族社会学研究』第3号の編集は、牧野委員(お茶大)を中心に、夏のセミナーでの配布を目指して、目下のところ順調に進められています。前回のセミナーを基礎とする特集と投稿論文を柱として、書評、動向、エッセイなどを配するパターンが一応定着し、査読専門委員の委嘱によって編集体制も整ってきました。

今回の特集は「いま家族に何が起きているのか—個人化と多様化への始動—」と題して、篠崎委員の責任編集のもとで、三谷鉄夫、目黒依子、松田苑子、磯田朋子、篠崎正美の各氏が執筆予定です。

投稿原稿については、締切を11月に繰り上げたことの影響が心配されましたが、追加募集などという事態にいたらず、十分な数が確保されました。初仕事となる専門委員の先生がたを中心に査読をお願いしています。大変熱心に取り組んでくださり、厳しい注文も続出していますが、著者の方々がコメントを正面から受け止めて改善をはかり、査読委員の納得を得るべく努力をし

ておられます。こうした過程は、学会誌を作った効果が如実に感じられて、嬉しいかぎりです。しかし予算枠との関係で掲載本数に限度があり、最終選考には苦勞しそうです。

これからの時期、広告掲載の募集(大久保委員)に奔走することになります。お心当りの方、とりわけ最近出版された(なされる予定の)方は、お力添えをお願いいたします。また、出版社以外で、ふさわしい広告主がありましたら、ぜひご紹介ください。

(石原記)

#### 事務局からのお願い

##### ★会費納入について

会費の納入につきましては会員諸氏の厚意のご協力を得て順調にすすんでいます。未納の方も若干名おられます。

本ニュースレターのタッグシール(宛名)に○印のついている方は、1990年度会費が、同じく○○印のついている方は1989、1990年度それぞれ未納です。一般会員の場合は、5,000円、院生会員の場合は3,500円を、下記のいずれかに振込んでください。いずれも振込先名義は家族社会学セミナー事務局です。

##### \*郵便振込

東京7-7756

##### \*銀行振込

第一勧銀早稲田支店

普通 1033815

##### ★会員名簿について

会員名簿を作成しますので同封の用紙に所定の事項を記入の上、事務局まで返送してください。理事選挙も控えておりますのでよろしくお願ひします。

##### ★学会誌の定期購読について

会員の方々の努力で機関誌の定期購読が着実に増加していますが、なお一層の拡大をはかりたいと思います。関係の機関あるい

は個人に定期購読をおすすめください。

現在までの機関購読一覧を以下に掲載し

またしたので参考にしてください。

『家族社会学研究』定期購読機関名 (1991.3.8現在・71位順)

愛知県立大学付属図書館、追手門学院大学付属図書館、大阪市立大学付属図書館、鹿児島大学付属図書館、学校法人根津育英会(武蔵大学人文学部総合研究室社会学科)、神奈川県社会福祉協議会資料室、関西大学社会学部資料室、金城学院大学図書館、熊本短期大学付属社会福祉研究所、神戸女学院大学図書館、神戸女学院大学総合文化学科、神戸海星女学園短期大学図書館、国際基督教大学図書館、埼玉県立浦和図書館、財団法人家計経済研究所、成城大学文芸学部文化史学科研究室、清泉女子大学付属図書館、大学生協図書サービスセンター、大正大学文学部社会学科、中央大学図書館、鉄道弘済会福祉資料室、東海大学中央図書館、東京学芸大学付属図書館、東京経済大学図書館、東京女子大学図書館、東京大学文学部社会学研究室、東京都婦人情報センター図書資料室、東京都立大学人文学部社会福祉学研究室、同志社大学、同志社女子大学図書館、東北大学、東北女子大学付属図書館、東洋英和女学院大学図書館、名古屋聖霊短期大学、名古屋大学教育学部図書室、名古屋大学教養部総合言語センター図書室、名古屋大学文学部図書室、名古屋短期大学付属図書館、奈良女子大学付属図書館、南山大学社会倫理研究所、南山短期大学図書館、新潟大学付属図書館、日本女子大学人間社会学部、日本女子大学西生田図書館、日本福祉事業大学付属図書館、日本労働研究機構資料センター、広島大学(2冊)、兵庫県家庭問題研究所、仏教大学社会学部応用社会学科、文教大学越谷図書館、法政大学社会学部資料室、法政大学大原社会問題研究所、北星学園大学図書館、北海道社会福祉協議会図書資料室、宮城教育大学、明治大学図書館、明治学院大学図書館、明星大学、山口大学付属図書館、龍谷大学図書館、龍谷大学図書館内社会学研究室、流通経済大学図書館、早稲田大学図書館、

キトリセ

氏名	フリガナ
自宅住所	〒
自宅電話	
所属機関名	職名
機関所在地	
機関電話番号	
Fax 番号	